

感染症情報 1月7日～13日

府下小児科199医療機関(堺市19)から

①感染性胃腸炎	1,422例(堺市	94例)
②溶連菌感染症	365例(堺市	50例)
③RSウイルス感染症	118例(堺市	7例)
④みずぼうそう	114例(堺市	9例)
⑤伝染性紅斑	111例(堺市	6例)

府下インフルエンザ定点302医療機関(堺市29)から

インフルエンザ 11,117例(堺市 1,143例)

感染症報告数は前週比160.1%増の2,367件であった(前週が年末年始で単純比較はできない)。

報告数の第1位は感染性胃腸炎で、以下溶連菌感染症、RSウイルス感染症、みずぼうそう、伝染性紅斑の順であった。

個々の前週との比較は控えるが、伝染性紅斑(りんご病)が報告数としては府下で第5位になった。今後さらに増加する可能性がある。

インフルエンザが府下で前週4422例→今回11117例となった。151%増で定点当たりの報告数は14.6→36.81であり、警報レベル開始基準値30.00を超えた。堺市では前週310例→今回1143例となった(269%増、定点当たり39.41)。

麻疹の報告が府下で今回5例あり(堺市はなし)、風疹は府下で同6例あった(堺市はなし)。麻疹風疹の拡大が懸念されていることもあるが、年度末が迫ってきており、MRのⅡ期(年長さんの学年)の定期接種の未接種者は忘れずにされたい。